

令和3年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 定時制)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 基礎学力の定着を図る 2 地域社会や家庭との連携を推進する 3 進路実現を目指す
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ・多様な生徒が在籍していることから、授業に集中し学習に取り組ませる指導を行っており、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 【課題】 ・授業や部活動等、学校活動に自主的に取り組む態度の育成。 ・多様な生徒に対応した教育課程の及び観点別評価の研究	・基礎学力の定着、基本的な生活習慣の確立及び指導力の向上と学習環境の整備 ・教育課程の検討及び観点別評価の理解と試行	①校内巡回、給食、登下校指導表を作成し、落ち着いた学習環境を整備する。 ②ICT 機器やアクティブラーニングを活用し、生徒に興味関心を高める授業を実践する。 ③教科間の連携と多文化共生推進員及び学習サポーターの活用により、多様化する生徒の支援を行う。 ④教育課程の検討及び観点別評価の研究・試行を行う。	①学校生活・態度など学習規律の定着度をアンケート、面談等で確認する。 ②アンケート結果から、学習意欲・理解度等の向上がみられたか。 ③教職員、学習サポーター等と面談を行うなどして、よりきめ細かく支援ができたか。 ④各委員会を活用し、観点別評価の研究が進んだか。					
2	【現状】 ・HP等を活用し、情報発信を行い、学校評価懇話会において意見交換等を実施している。 ・外部の教育機関との連携を積極的に実施している。 【課題】 ・コロナ禍で十分な対応が取れず、引き続き多くの保護者や外部の方々に教育活動をご覧いただけるよう周知し理解を得る。	・HP等の情報発信 ・コロナ禍に対応した教育活動等の運営及び開かれた学校づくり	①新聞等を効果的に活用して外部発信する。 ②学校教育活動をHPに工夫した内容で、迅速に掲載する。 ③学校評議員会や学校評価懇話会の意見助言を活用する。 ④SC、SSW、自立支援事業等、外部の専門機関との連携を図り、より積極的に活用する。 ⑤各教科・委員会と共通理解の下、教育活動を運営する。	①アクセス数を増やすことができたか。 ②学校行事等に保護者、外部の参加が増加したか。 ③本年度の反省を行い、次年度の課題にできたか。 ④外部の専門機関との連携が強化でき、生徒・保護者に還元できたか。 ⑤コロナ禍に対応した教育活動が行えたか。					
3	【現状】 ・卒業後の進路を定められない生徒も見受けられるが、粘り強い指導が続けられている。 ・多様な個性を持つ生徒の支援を組織的に実施している。 【課題】 ・これまでの成果を踏まえ、各年次、各部会、各委員会等で連携し、卒業後自立した社会人として活躍できるよう生徒を支援・指導する。	・規律ある生活態度の育成とともに多様な生徒の状況の理解と支援 ・各組織間で連携した組織的な生徒の卒業後の自立指導支援の構築	①声掛け運動(登下校時等)を実施する。また、時間を守る等、基本的な生活習慣の徹底を共通理解のもと、実践する。 ②各年次、生徒指導部、特別教育支援推進委員会を中心とし、多様な生徒の情報共有、理解、支援を行う。 ③LHRや放課後等を利用した校内外の進路説明会を実践し、就職支援アドバイザーを活用した進路指導の実現を行う。	①出席率が向上し、規律ある授業が展開できたか。授業、集会行事等を利用して時間意識を徹底できたか。 ②職員会議・打合せ等で全教職員が情報共有して、理解、支援を進めることができたか。 ③個々の生徒に応じた進路指導が実施されているか。生徒の第一志望の進路実現ができたか。					